

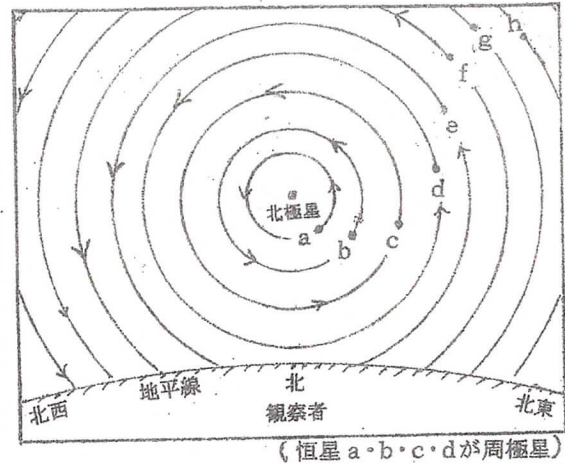
☆天文の基礎知識 ～沈まない星「周極星」～

私たちが住んでいる地球が、毎日西から東に向かって回転しているために、多くの星は東側の地平線から昇って時間とともに移動し、西側の地平線に沈むように見えます。

ところが、北側の北極星の近くに見える一部の星は、朝になって空が明るくなるために見えなくなるだけで、いつも空に出ていて沈むことはありません。このような星を「周極星」といいます。

周極星は沈まないで1日に1回、北極星の真下を左(西)から右(東)に向かって通るわけですが、北極星の高さが地球上の北に行くほど高く、逆に南に行くほど低くなるので、星をどこで観察するかによって、北極星の下を通る周極星の数も違います。

黒石市での周極星の主なものには、W形に5つの星が並んで見えるカシオペア座のほとんどの星や、スプーンの形をした北斗七星の一番端を除いた6つの星、五角形をしてたいへん目立つケフェウス座の全ての星などがあります。



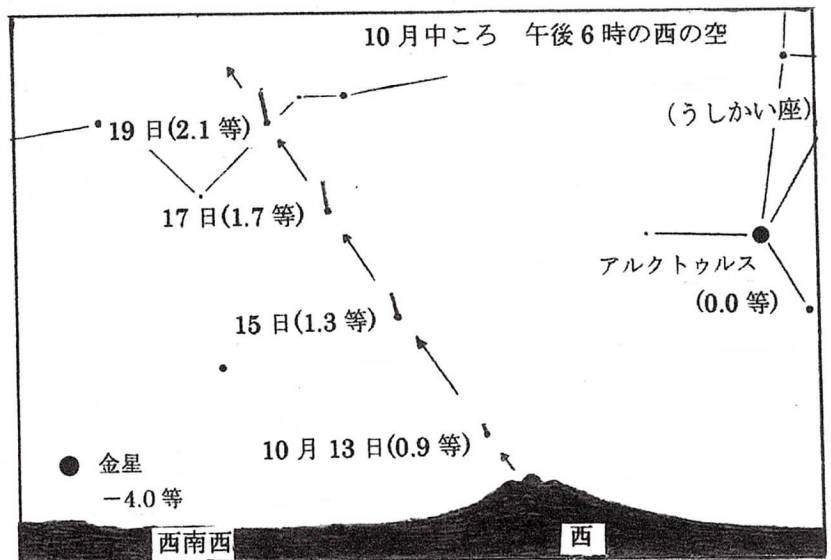
★今年一番の天体ショー

10月中ころ 肉眼で見える明るい彗星がやって来る!!

1990年代までは、ヘールボップ彗星や百武彗星など、肉眼で見える明るく大きな彗星が次々とやって来ましたが、最近では大きな彗星が現れずちよっぴり残念です。しかし、昨年2月に外国で発見された「紫金山・アトラス彗星 (C/2023A3)」が、今年の秋に太陽に接近して明るい肉眼彗星になるのではと期待されています。

9月28日に太陽に最も近づき明るくなりますが、日本では明け方の東天の低い位置にあり、観察するのはむずかしいでしょう。しかし、10月13日には、夕方方の西天の低い位置(黒石付近から見ると岩木山のすぐ上)に見えるようになり明るさも1等級くらいになるという予報もあります。その後だんだん暗くなりますが、高度を上げ見やすくなりますのでしばらくは楽しめるでしょう。

今年一番の天体ショーとして、ひさびさに尾をともなった“ほうき星”を見ることが出来るかもしれません。



(彗星の尾は方向を示したイメージ)